

第1回 10月10日(土) 13:30~15:00

臨床考古学と基礎考古学—名大考古学講座の歩みから

講師 山本直人 教授 (名古屋大学人文科学研究科考古学分野・専門)

名古屋大学に考古学講座が正式に開設されたのは1966年です。それ以前に名大が行った発掘調査を紹介するとともに、考古学的事実を解釈するための基礎研究や東山キャンパスの遺跡を教育に活用している例についてお話しします。



伊賀記念考古学発掘調査に学ぶ発掘調査

第2回 11月28日(土) 13:30~15:00

地域と連携する名大考古学—愛知用水から伊保庵寺、さらにその先へ

講師 梶原義実 准教授 (名古屋大学人文科学研究科考古学分野・専門)

名古屋大学考古学研究室は、愛知用水の建設に先立つ遺跡調査に協力し、東海地域の農業史研究の礎を築きました。現在行われている古代寺院跡(伊保庵寺)の調査を紹介するとともに、地域史の解明に貢献する名大考古学のこれらについてお話しします。



伊保庵寺の遺跡の発掘調査

第3回 2021年1月16日(土) 13:30~15:00

7基のピラミッドの3D計測調査と建造研究

講師 河江肖剣 准教授 (名古屋大学高等研究院)

エジプトのピラミッドの建造技術については多くの謎が残されています。最新の3D計測技術を活用したピラミッド調査について話し、そこから見えてきた古代の試行錯誤のピラミッド建造の実態にせまります。



ピラミッドの3D測定の様子

第4回 2021年2月6日(土) 13:30~15:00

名古屋大学によるアフリカと西アジアの旧石器遺跡調査

講師 門脇誠二 講師 (名古屋大学博物館)

私たち現生人類はアフリカで出現しましたが、後に世界中に拡散しました。旧人や原人が絶滅する一方で現生人類が生き残ることができた理由は何でしょうか?名古屋大学によるアフリカと西アジアの遺跡調査から分かってきた事実をお話しします。



西アジアの旧石器時代の遺跡調査

会場：オンライン 申込先着制 200名 参加無料

申込：名大博物館HP <http://www.num.nagoya-u.ac.jp/event/special/200317.html>  
または「博物館窓口」へ 氏名(ふりがな)・電話番号・年代・メールアドレスをお申込ください。※本講座はオンラインで行います。会場にお越しいたぐのではなく、パソコンやスマートフォンからご観覧ください。  
「接続練習会」を10月3日(土)13:30~オンラインにて行います。接続に不安がある場合は、HPからお申込みの上、ご観覧ください。

問い合わせ先 名古屋大学博物館 〒464-8601 名古屋市中千種区不老町 TEL: 052-789-5767

同時開催 スポット展

オルメカ・マヤの拓本展：  
メソアメリカの権力と暦Power and calendar in ancient Mesoamerica:  
Reliefed copies of Olmec and Maya stones会期：2020年3月17日(火)  
～2021年4月10日(土)

会場：名古屋大学博物館3階展示室

中央のオルメカ・マヤ文明で2300年前につくられた石製の拓本10点を展示します。2mを超え巨大な石像も作り出す。暦や王の権力を示す神話の力を解いてください。

Nagoya University Museum  
名古屋大学博物館  
〒464-0001 名古屋市中千種区不老町 (地下鉄有線) 名古屋大学(東山キャンパス)  
☎052-789-5767 (名古屋大学ホームページ) <http://www.num.nagoya-u.ac.jp/> (日本語) <http://www.num.nagoya-u.ac.jp/en/> (英語)アフリカから東山キャンパスまで  
名古屋大学による遺跡調査  
からみる  
人類史開催延長  
名古屋大学博物館3階展示室  
2021年  
3月17日(天) | 9月26日(土)  
開館時間 午前10時～午後3時(入館は午後2時30分まで)  
休館日 日・月曜日(年末休館日12月29日・1月4日)  
※本講座はオンラインで行います。会場にお越しいたぐのではなく、パソコンやスマートフォンからご観覧ください。Nagoya University Museum  
名古屋大学博物館〒464-8601 名古屋市中千種区不老町  
TEL:052-789-5767 FAX:052-789-5996  
<http://www.num.nagoya-u.ac.jp>主催：名古屋大学博物館  
共催：名古屋大学人文科学研究科考古学分野・専門  
名古屋大学高等研究院

# 遺跡調査からみる人類史

From Africa to Higashiyama campus: Human history through archaeological field work by Nagoya University



700万年におよぶ人類史のほとんどを語るのは、過去の人々が残した様々な遺跡です。人類が誕生したアフリカの遺跡から、東山キャンパスの古代遺跡まで、名古屋大学は70年以上にわたる国内外の150以上の遺跡を調査してきました。その多岐にわたる研究の軌跡と最新鋭を紹介いたします。



三島線文様三神三脚器  
(岡山古墳・地味古墳)



名古屋時代の製品群(大宮町)



縄文遺跡群の鳥居  
(清洲・名古屋町)

## 5 縄文から弥生、そして古墳時代にかけての地域史の解明

愛知県と岐阜県を中心に縄文-弥生時代の貝塚や河原遺跡、古墳時代の古墳群や集落、古窯(須恵器を焼いた窯跡)などが調査されました。これらの調査で収集された土器や石器、動物骨などを展示します。近年調査されている北海道の縄文貝塚についても紹介いたします。これらの調査は地元の教育委員会と協力する形で進められており、地域史の解明に貢献しました。

## 6 名大東山キャンパスの窯跡調査と古窯の研究

東山キャンパスには、古墳時代から平安時代にかけて須恵器や陶器が生産された窯跡があります。それらを焼いた窯跡が20基ほどあり、その内の4つが近年調査されました。名古屋大学は、名古屋市東部・豊田市西部の積良山西南麓古窯跡群をはじめとして数多くの窯跡調査を行い、中部地方における古窯研究の礎を築きました。



須恵器(須恵器と土器)  
(新井23号窯・日産市)



古瀬戸の陶器(大瀬戸古瀬戸古窯跡群・瀬戸町)



内河橋焼  
(徳山古窯跡群・徳山町)



東山キャンパスの窯跡調査(東山14号窯)

当館が実施する現地視察に際してご理解をお願いいたします。  
 調査の日程や内容など、人数制限(現地内人数20名まで)・視察料(10人未満のみ)・ご自身の持ち物(軽便な服装)などについてご説明いたします。  
 遺跡群の存在は、人類の歴史に欠かせない重要な部分であり、その研究を通じて人類の歴史を明らかにすることができます。遺跡群の存在は、人類の歴史に欠かせない重要な部分であり、その研究を通じて人類の歴史を明らかにすることができます。遺跡群の存在は、人類の歴史に欠かせない重要な部分であり、その研究を通じて人類の歴史を明らかにすることができます。

## 1 人類の進化をたどる遺跡調査

原人からネアンデルタール人、そして私達ホモ・サピエンス(現生人類)への人類進化にともなう文化の変化をたどります。数万〜30万年以上前の人々が使った石器や装身具を展示。



原人が使った大型石器  
(タンザニア)



東山キャンパスの東山14号窯跡(東山14号)

## 2 古代エジプトのピラミッド測量とヘレニズム期の遺跡

ピラミッドの内閣構造や建築技術をさぐる3D測量や宇宙線によるスキャン(ScanPyramids)について、動画や原子核乾板を展示します。パーチャリリアデーの体験もできます。また、古代エジプト文化が大きく変わったヘレニズム期の遺跡調査についても紹介します。



ピラミッドの3D測量の様子



ピラミッド内に設置された原子核乾板(ScanPyramids)



ピラミッドの3D測量データ

## 3 古代の寺院遺跡とアフガニスタンの仏教美術

古代日本の仏教寺院の遺跡(興寺)の調査や、アフガニスタンの仏教美術としてバミヤーンの大仏や仏教壁画の現地調査について紹介します。



伊波長寺の軒瓦(徳島県)



バミヤーン大仏の天女面(写真:バミヤーン)

## 4 古代東山道の祭祀遺跡

古代の畿内と東国をむすんだ「東山道」には、険しい山道を通った人々が旅の安全を祈った場所がありました。その遺跡の調査について紹介します。



東山道の祭祀用の土器製陶  
(山崎遺跡・中津川町)

